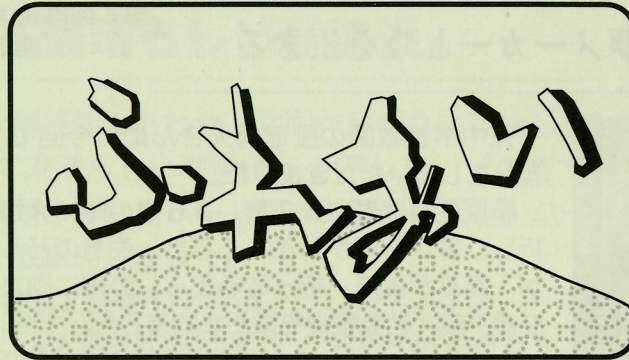


人権協シンボルマーク

いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。



美浜町人権尊重啓発協議会会報

第64号

発行:平成30年3月23日
(年3回発行)

編集:人権協広報部会
連絡先:美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

E-mail:jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

「青島広志のおしゃべりコンサート」

～音楽から人権を考える～ 人権のつどい2017(12/9)

軽妙な語り口と音楽で「人権問題」を！

12月9日に、生涯学習センターなびあすで「人権のつどい2017」が開催されました。今年は、音楽家の青島広志さん・声楽家の小野勉さんを迎え、「人権おしゃべりコンサート～音楽から人権を考える～」をテーマにトーク&ライブが催されました。

最初に語られたことは、人権問題を取り上げるときにまず「戦争」ということを考えなくてはいけないということでした。取り上げられた曲は、「幌馬車」と「うみ」でした。

戦争は、人間にとって一番大事な命（「生きる」権利の最たるもの）を奪ってしまいます。最大の人権侵害は戦争だということに改めて気づかされました。今の時代を見ていると、何となく戦争の足音が聞こえてくるような気がしてなりません。

そこから、「国籍」「人種」「民族」「男女共生」「風俗」「外見」「知的障がい」「精神障がい」「聴覚障がい」「LGBT」「動物愛護」「宗教」「高齢者」と相当広い分野にわたって、17曲の音楽を通して、おしゃべりコンサートは進んでいきました。

次々と人権問題の視点を変えながら、青島さんの独特の語り口とすばらしいピアノ伴奏、小野さんの優しく澄み切った歌声で、人権というテーマをわかりやすく、身近なものとして、私たちに語りかけて下さいました。今回の人権のつどいも、私たちに、「人権」について考える機会、きっかけを与えてくれました。



青島氏はしゃべりのおもしろさと思慮深い考えを持ちすごい人だなと思いました。小野氏はすきっとした声でさすがプロ。ピアノがすみわたる音で素晴らしいです。アヴェマリアなどの音楽の中に人権問題があるのだと発見しました。高齢者の話が良かったです。

さまざまな人権のテーマをもとに音楽と一緒に多くの事を知る事ができました。音楽の中にもいろいろな話があることを改めて知ることができました。

青島先生に興味があってきましたが、コンサートの構成が人権をテーマにしてあって面白かったです。講演会というのはよくありますが、こういう形は画期的だなと思いました。

コンサートの青島さんは言いにくいこともサラッと伝え、聴衆に考えさせることが多かったように思いました。楽しい中にも人権についてなるほどと思うことが多々ありました。ピアノと歌と独特の話、話題も豊富で楽しく聞かせて頂きました。この様な人権のつどいは楽しくて良いと思いました。

「命の授業」 ドリー夢メーカーと今を生きる

第5回町民人権講座 (10/20. なびあす)
腰塚勇人 さん



元中学校教師の腰塚勇人さんに、今回で1374回目になる『命の授業』をしていただきました。

腰塚さんは現在52歳。36歳の時に大好きなスキーで転倒。頸椎を骨折し、首から下が動かなくなり、失意のどん底に。自殺も考えたそうですが、周りからの「待ってるから」の声に励まされながら、つらいリハビリを乗り越え社会復帰を果たされました。

たくさんのキーワードがありましたが、印象に残った一つ目の言葉は「ドリー夢メーカー」。ドリー夢メーカーとは、「自分の可能性を信じ夢を実現しようとする人、誰かの夢を知り応援しようとする人、誰かのありのままの存在を認め、思いやり、寄り添って生きる人」のこと。両親や妻をはじめ、たくさんのドリー夢メーカーのおかげで今の自分がある、皆さんも一人でも多くの人のドリー夢メーカーになってほしいと話されました。

もう一つは、決して命を粗末にしない「命の喜ぶ生き方をする」ということ。そのために五つの誓いを立てていると話されました。

①口は人を励ます言葉や感謝の言葉を使うために使おう ②耳は人の言葉を最後まで聴いてあげるために使おう ③目は人のよいところを見るために使おう ④手足は人を助けるために使おう ⑤心は人の痛みがわかるために使おう というものです。

それまで、自分で自分の命を生きてきたと思っていた腰塚さんが、大けがを機に多くの方々に生かされてきたことに気がついて、周りの人々に「笑顔」と「ありがとう」を返す生き方に転換した、その思いに感銘を受け、改めて人と人とのあたたかいつながりこそが人権の原点であることを思い知らされた講演会でした。

今回の講座を聞いて、自分が普段どれだけ命について考えていないかということに気が付くことができました。命があることが当たり前、周りに大切な人がいる事が当たり前ではないんだということを改めて教えてもらうことができました。

「知る・正しく学ぶ」

第6回町民人権講座 (11/14. なびあす)
林 由紀子 さん

今回の講座では、2009年秋から1年半にわたり、密着取材された京都市立弥栄中学校(2011年春に小中一貫校に統合のため閉校)の人権教育により同和問題や差別と向き合い成長していく生徒達の様子や、林さんの同和問題に対する考え方についてお話しいただきました。

弥栄中学校は同和地区や児童養護施設に住んでいる生徒、外国にルーツをもっていたり体に障がいがあったりする生徒などが多く通っており、「仲間づくり」を基本とした独自の人権教育の取組を行ってきたそうです。その中でも、各学年がそれぞれ「いじめ」「戦争と平和」

「部落(同和)問題」といったテーマでつくる人権劇と、みんなの前で自分の立場で自分を語る場面が印象的でした。当時取材された映像には、生まれ育った環境や今後不安を抱きながらも、人権教育を受けることにより両親や先生に相談したり、勇気を出して友達に聞いたりしながら、自分や家族、地域や友達と向き合い成長していく生徒たちが映し出されていました。

「知らないから差別されない」ではなく「知っているから差別されない」ことが大切、「正しく学んだ子に差別者は生まれない」と人権教育の大切さを教えていただきました。また、一人の記者として部落問題だけでなく、いろいろな差別問題に取り組んでいきたいと締めくくられました。



知ることの大切さを学びました。知らないから怖がるのだし、知らないから差別が起こるのだと改めて思いました。正しく知らないから部落問題におびえる子どもをつくりたくないし、知らないから他人を差別する子どもをつくりたくないと思いました。

「生きているって素晴らしい@美浜」

12月4日から始まる人権週間にあわせ、共同作品作りを実施しました。今年「生きているって素晴らしい@美浜」と題して、「生きていること」「命があること」の素晴らしさをハート型の付箋に記入し、ハート型のオブジェに貼り付けていく取組をしました。

家族や友人、地域の人たちと生活していて「うれしいなあ」「すてきななあ」「たのしいなあ」「ワクワクするなあ」「ドキドキするなあ」という事柄を、小さい子から年配の方まで、多くの方がどんどん書き加えてくれました。

現在もなびあすに展示してあります。なびあすにお越しの際にはぜひともご覧いただき、一人ひとりの生きている喜びを感じていただきたいと思います。



祝！初の1000人突破！！

今年度も計6回の人権講座が行われました。2017年度は、開催以来初めて年間の講座来場者数が1000人を突破しました！

6回の講座の来場者数はのべ1207名！！
たくさんの方に参加していただき、ありがとうございました。

来年度も、2018人権講座として計6回の講座を開催する予定です。

さらに魅力のある、皆さんに参加してもらえる講座となるように、講師の先生や内容を部会で話し合っています。

たくさんのご参加、お待ちしております！

予告速報！ 2018 人権講座

2018人権講座第1回、第2回に来ていただく講師の方が決定しました！

5月 (第1回)
佐久間レイさん
(声優)

6月 (第2回)
ジェフ・バーグランドさん
(作家・タレント)



この融合は、来場する選手や観客の皆さんが観戦・応援する機会を創出することにより、障害者スポーツの魅力アピールと障害の有無にかかわらず、ともにスポーツを楽しみ、声援を送り、支え合う社会の実現に向け、大会を盛り上げるという思いが込められているところです。

美浜町では、国体正式競技としてボート、軟式野球の2競技。デモンストラシヨンスポーツ競技として県内小学生と障害者を対象にローイングエルゴメータ（ボート競技の水上での動きを陸上で再現できる器具）を使った競技。障害者スポーツ大会としてゲートボール競技が開催されます。

今年韓国で平昌オリンピック・パラリンピックが開催され、多くの感動が生まれましたが、秋は福井しあわせ元気国体、障害者スポーツ大会の競技会場でスポーツの素晴らしさと感動を共有してみませんか。

(D)

〈人権コラム〉

今年の秋に福井国体が開催されます。福井県での開催は昭和43年に開催された第23回大会以来、50年ぶり2回目となり、愛称『福井しあわせ元気国体』として開催されます。

また、全国障害者スポーツ大会も開催され、全国初の試みとして、障害者スポーツ大会競技の一部を国体会期中に実施するなど、国体と障害者スポーツとの融合が図られます。

こえ 声 こえ

「ふれあい」第63号をお読みにになった読者の方より、おたよりが寄せられましたので紹介します。

◆9月22日(金)に開催された町民人権講座に寄せていただきました。落語家「露の団姫」さんによる「女らしく 男らしくなく 自分らしく」という講演をお聞きました。案内チラシを見た瞬間、受講したいと思いました。露のさんの笑顔が、とても幸せそうだったからです。「固定観念にとらわれない」ことが大切だと感じながら、帰るときには自然と笑顔になっていることに気づきました。

◆「この世界の片隅に」を見せていただきました。ありがとうございます。日本人の忘れがたいものが作品に込められているように感じました。妻の実家が鹿児島島の田舎でよく似た雰囲気があり温かい気持ちになりました。素晴らしい映画でした。

◆毎度魅力的な講座運営誠にありがとうございます。第2回のような講演会や第3回のような映画等、内容も豊かでいいと思います。町外の者で悪い気もするのですが、地域一帯また力になる事があればと思います。ヒロシマ、ナガサキ、終戦の日を前に子どもたちも含め考える良い機会となったと思います。

◆露のさんは「相手の立場になって考える」という事を面白おかしく伝えて下さり、内容が深いなと感動しました。ご自身のご夫婦のお話や、落語、仏教のお話から考えさせられることがたくさんでした。本当にありがたいお話でした。

1	6		12		19	
2			13	16		
	7	10		17		22
3		11				
4	8			18	20	
	9		14		21	23
5			15			

■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでおねがいします)

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 美浜町生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
※ FAX (0770-32-1222) E-mail (jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)
- 〆切は、平成30年5月30日(水)です。
- 正解者の中から抽選で5名の方に、図書カードをお送りします。
- なお、前号の「人権クロスワード」の正解は、「ジェンダー」でした。なじみの少ない言葉だったかもしれませんが、ジェンダーとは固定観念に基づく性差を意味しています。ジェンダーによる男女差別をなくしていくことが、全世界の課題です。当選者は 木谷 亮太さん(早瀬) でした。おめでとうございます。

人権クロスワードパズル

二重わくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。

ヒント「他人に対して心をくばること」「合理的○○○○」

タテのカギ

- 1: 雪の上を滑る、物や人を運ぶ乗り物。
- 3: フランスの国旗には使われているが、日本の国旗には使われていない色。
- 6: 「音楽の父」とも呼ばれるドイツの音楽家。
- 8: 図書館で専門的な事務を行う人のこと。
- 10: 繁縷と書く、春の七草の一つ。
- 12: 水蒸気が物の表面に凍りついたもの。
- 14: ○○引き、○○耳、○○笑い。
- 16: アメリカの州で州都はフェニックス。グランドキャニオンが有名。
- 19: 買う値段も売る値段もこう言います。
- 20: 歯の根元を覆う肉のこと。
- 22: 腰をかける道具。
- 23: 重力や重力加速度に使われるアルファベット。

ヨコのカギ

- 1: ご飯と焼きそばを一緒に炒めた料理。
- 2: 割合のこと。確○○、税○○、百分○○。
- 4: 植物の、花粉を出す部分のこと。
- 5: 「実」の対義語。ウソや偽りのこと。
- 7: 親のうち、女性の方。
- 9: お酒を飲んでいない状態のこと。
- 11: 和紙の原料の一つ。
- 13: イースター島にある巨大な石像。
- 15: ビスケットよりも脂肪が多めの洋菓子。
- 17: 物事の内容を正しく知ること。
- 18: 沖縄県の県庁所在地。
- 19: 英語で書くとspring。
- 21: 福井や京都で水揚げされたアマダイを、こう呼ぶことも…。

編集後記

2017年度の人権協の活動も間もなく終わろうとしています。この広報誌「ふれあい」を手にとってみると、改めていろいろなことに取り組んだ1年間だったなと感慨もひとしおです。取り立てて、目新しいことはありません。ある意味、同じ活動の繰り返しであるかもしれません。皆で意見を出し合って、見直すべきは見直していくべきだと思いますし、そのような場も確保されています。現にここ数年、少しずつですが変革されてきたところもあります。

しかし、それでも尚、不変の魂のようなものがあるのも確かです。人権尊重を明確に掲げ進んできた者の使命のようなものであると思います。根本の精神を揺るがすことなく、今後も着実な歩みを刻んでいくことでしょうか。一つの

例を挙げれば、22年目に突入する2018年度、人権講座は通算130回目を迎えることとなります。考えてみれば、この間、100人を超える講師の方々が美浜に足を運び、私たちに人権について考える機会をつくってくださいました。これは、まさによそに類をみない奇跡です。一口に130回と言っても大変なことです。同じことの繰り返しに見えて、実はその根幹を貫くものを大切にしながらも、毎回テーマも講師も形態も変えていくという、常にその意識の上に立って企画運営されているからこそ、新鮮さを失わないのであると思います。

考えてみれば、私たちの日常も単調な日々の繰り返しかもしれませんが、その中に、いかに前を向いて、新鮮さと価値を見出していかかということに尽きるのかもしれないね。(河合)